

古里で子育て イラストレーターママ

実家の納屋をリノベーションし、夫と2人の息子たちと暮らしながらイラストを制作しているのは浦本真衣さん(28)です。同地区の津森神宮の歴代の境内図も手掛け、「朝野まいこ」というペンネームで活動しています。

手掛けるイラストは主に、マップやチラシ、名刺、ロゴ、似顔絵など。筆や絵の具が作業用の道具かと思いきや、タブレット端末を使って書きタッチの見事なイラストを仕上げていきます。依頼を受けた赤ちゃんの似顔絵も愛らしく描いていました。

また、「益城町の良さをイラストで全国にPRしたい」と、栄養士の資格も持つ浦本さんは、町のおいし



寺中地区で暮らし、イラストを手掛ける浦本真衣さん

いものを描いたイラストをイン스타그램で公開しています。

自宅アトリエの窓から集落の風景が見下ろせます。「小さい頃から、ここからの眺めが大好きなんです」という浦本さんが新居に越してきたのは昨年12月のこと。3姉妹の長女で、夫の理解もあり寺中で暮らし始めました。

今、浦本さんのお腹には、小さな命が宿っています。「来年の3月が出産予定です。今度も男の子。娘ばかりだったせいか『男の子の孫がまた生まれる』と、父が誰より喜んでいます」と幸せな笑顔を見せます。

浦本さんが主宰する「雅」では、企業や個人向けのイラストの受注、作成、販売を行っています。



津森神宮の歴史を伝えるイラストも制作しています

長男の大晴君(5)がママの仕事を見守ります



猿が出たっ！ あわてず有線放送

津森や福田地区では、各家庭にスピーカーが設置されており、地域の情報を発信する有線放送や防災行政無線放送が流れます。

「私が担当する寺中地区の行事の案内や災害、そして今起きていることなどを、いち早く住民の人たちにお伝えしています。先日などは猿が出没し、皆さんが危害に遭われないようにと、放送で注意を促しました」と話すのは、区長の小田照美さん(72)です。

地域ならではの細やかな情報が、皆さんの暮らしを支えているよう



自宅のアトリエの窓から集落の風景が広がります

木山川の土手から眺めた寺中地区の風景



親しみやすい人柄の寺中区長の小田照美さん

です。また高齢者が多い寺中地区には、移動販売車もやって来ます。「車を運転できない高齢者にとって、移動販売はとても助かっているようです。花を植えたり野菜を育てるお年寄りの皆さんの元気な姿を見届けると安心します」と言う小田さんの優しい言葉が印象的でした。